

えりも岬国有林海岸防災林造成事業の取組み

日高南部森林管理署

【はじめに】

えりも町に位置するえりも岬国有林はかつてカシワ等の原生林で覆われていたが、明治時代の開拓期に荒廃が急速に進み、飛砂が近海を濁し、魚介類の水揚げ高が激減するなど地域の生活環境が悪化しました。このため地域住民等の要望により、昭和28年にえりも治山事業所が開設され緑化事業がスタートしました。その後多くの困難に見舞われながらも先人たちの知恵と工夫によって、現在の森林が形成されています。

【現在までの取組】

●草本緑化

裸地化した荒廃地に植生を再生するため、まずは「草本緑化」を実施しました。

当初は、えりも特有の強風により撒いた種子が飛ばされ、思うように緑化が進みませんでした。昭和32年に地元の昔からの知恵をもとに、種子を撒いた後に飛砂と乾燥防止を目的に雑



事業開始前の荒廃したえりも岬



緑化が進んだ現在のえりも岬



海藻（ゴタ）を敷く「えりも式緑化工法」が開発されると飛躍的に緑化が進み、昭和45年には荒廃地約192ヶ所の草本緑化をほぼ完了することができました。

●木本緑化

草本緑化が終了した土地

には順次、苗木を植栽する「木本緑化」を進めました。当初の生育は思わしくありませんでしたが、幾種類もの樹種を試植したところ、クロマツが最も良く根付いたことから、現在までこの樹種を主体に緑化を進めており、令和3年度末までに約197ヶ所の木本緑化を実施しています。

【地域と連携したえりも緑化事業70年】

今年でえりも岬の緑化事業は70年を迎えました。これまでの間、地域の行政機関、漁協、林業関係者のみなさんと数々の苦難を乗り越え協力し合って進めてきました。緑化事業の成果とともに漁獲量も回復し、この取組は地域が連携し、成し得た成功事例として多くのテレビ番組や小中学生の教科書にも採用されました。当署では、この思いと歴史を次世代に伝えるため、毎年中学生から高校生を対象に講演会、植樹、育樹を継続して行う中高一貫教育

フィールド学習を実施しています。

【今後に向けて】

現在のえりも岬国有林はクロマツ一斉林が多い状況ですが、かつての森林の状態に近づけるため広葉樹が育成できる環境づくりに努め、針広混交林化を目指しているところです。事業継続100年を目指し、今後も地域のみなさんと連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。



間伐したクロマツの間に広葉樹を植栽しています。（白い筒はエゾシカの食害対策の保護管です）

※緑化事業の概要はこちらをご覧ください

→

